

会報
峠
とうげ

河井継之助記念館
友の会会報
第22号
2017.11

〈編集・発行〉
河井継之助記念館
新潟県長岡市長町1丁目1675-1
〒940-0053
Tel.0258-30-1525
Fax.0258-30-1526
頒布価：50円（送料別）

〈編集人〉
荒木法子 恩田富太
堀口晴夫 水野秀雄
渡邊静江 友の会事務局

〈構成・印刷〉
高速印刷株式会社

赤い糸

河井家 河井 恵美



始めに友の会会長下田様、友の会幹事、会員の皆様が河井継之助記念館を支え、百五十年にもなる法要を催行して頂きました。皆様に心より御礼申し上げます。又継之助の生き方に共感したり、その人柄に親しみを感じて下さる、たくさんの方々に、河井の姓を継ぐ者として、心より感謝申し上げます。

六十年前、河井正安に嫁ぐ前にも後にも継之助に連がる家とは知りませんでした。何かの折に、新潟出身の同僚と父茂樹の話をしていて、その先代が継之助であることを、知らされました。帰宅して正安にたずねましたら一言「うん」と云っただけで、後は何も語りませんでした。その後何かの折に、父茂樹が子供達に



河井家第七代 故 河井正安様

「継之助は、長岡城下を灰にして、人々の恨みをかけている人物なので、間違っても長岡で河井を名乗るな」と厳しく云われていた、と聞かされました。義姉の、永田義子も、子供達が尋ねても「昔の人」と云う以外、何も教えてくれなかった、と甥が申し出ておりました。継之助記念館へも「あなたに任せる」と云い、一度も足を運ばなかった非礼を心からお詫び申しあげます。一昨年、九十二歳で旅立ちましたが、彼もまた「さむらい」だったとつくづく感じます。

私は学生の頃から次の言葉を座右の銘とし心の柱として参りました。「幼にして学べば即ち壮にして成すことあり 壮にして学べば即ち老にして老いず、老にして学べば即ち死して朽ちず」と。目下老にして学べばの人生を歩いておりますが、この言葉を残した佐藤一斎は、継之助が師と仰いだ山田方谷が師事した人と聞いておりますが、又継之助も教えを乞うた人と知り、何やら因縁めいたものを感じます。又甲骨文字の大

家欧陽可亮氏の作品をめぐって、三鷹市役所とその御遺族とのトラブルに關し、その仲介を頼まれ、二年程掛って御遺族の満足のいくような解決に至りました。が継之助がかつて、欧陽修の書物を取り寄せて学んだと云う事を思い出し、御遺族に尋ねましたら、彼女の先祖とのことで、又驚きました。百数十年を経て、継之助が学んだ書の著者の子孫と関わりを持つなどと云う事は、赤い糸に導かれて河井の家にやって来たと思えません。

最後に、最近長岡を訪れる度に感じる独特の地域性です。歴史を懐に入れつつ、前へ、上へとの気概が素晴らしいと思います。そのファイトに脱帽です。素晴らしい長岡に、赤い糸で導かれた幸せを感じます。長岡市と継之助記念館と市民の皆様の増々の御発展を、心より祈念申し上げます。

河井恵美 (かわい えみ) プロフィール

音大卒業後七年間教職につく。その後三鷹市体育指導委員協議会会長、三鷹市芸術文化財団理事、東京都パドルテニス協会会長、三鷹市パドルテニス協会会長を歴任し、現在日本パドルテニス協会相談役、三鷹市パドルテニス協会相談役。一九八五年に設立した総合型スポーツクラブの三鷹市ベッセルスポーツクラブの会長を三十二年務める。

その他チャンソンリサیتال・ソロライブ、コンサートなどに出演中